

## 流量・雨量調査特記仕様書（参考）

### 1. 流量調査工

流量計測においては以下に掲げる条件を満たすこと。

- 1) 原則として人孔内に流量計を仮設して連続計測する。（道路上に施設を設ける方法は不可）
- 2) 測定方法は、パーマーボウラスフリュームと超音波式水位データロガ（タフレベル相当品）の組み合わせを原則とする。但し、上流側の管勾配が急であること等、フリュームによる計測が不可能な場合は四角セキ等、そのロケーションに対し、最も精度が得られる方法を選定し、あらかじめ監督員の承諾を得ること。
- 3) 測定箇所は、精度が確保できる位置を選び、あらかじめ監督員の承諾を得ること。
- 4) 測定データは、測定期間中1分ピッチで収録させること。
- 5) 計測期間中で、降雨15mm程度または降雨影響が見られる1降雨のデータを確保すること。
- 6) 計測期間内で評価・解析に耐え得る有効なデータが取れない場合は、請負者と監督員で計測期間の延長を協議のうえ決定すること。

### 2. 雨量調査工

雨量計測にあいては以下に掲げる条件を満たすこと。

- 1) 測定方法は転倒柵型雨量発信器（0.1mm計）とデータロガの組み合わせを原則とし、流量計測と同様に測定期間中1分ピッチで雨量データを収録させること。
- 2) 転倒柵は調査目的に叶う位置（対象地域を代表する事ができるような場所で、いたずらなどの被害を受けにくい公共施設の屋上など）を選択し、あらかじめ監督員の承諾を得ること。

### 3. 報告書作成工

#### 1) 調査結果のとりまとめ

調査結果は、調査目的に叶う十分な内容を網羅し、分かり易く簡単に原質量と集計資料にとりまとめること。

#### 2) 評価解析

集計結果をもとに以下の内容で解析し、評価結果を報告書にとりまとめる。

- a. 浸入水については、「雨天時浸入水」・「常時浸入水」・「浸透浸入水」に分類して定量し各々について評価すること。
- b. 評価方法は、現場で収集した流量と雨量の測定データをもとに、「絶対量評価」・「単体量評価（順位評価）」および「原単位方式による簡易評価」の3つの方法で総合的に行うこと。「原単位方式による不明水の簡易評価」とは、計画原単位の一般的な比率関係を利用した評価方法である。